プラン・ニュース［2022 Autumn］NO.121

PLAN NEWS

国際ガールズ・デー 特別インタビュー

森星さんが 世界の女の子たちとかなえたい夢

プラン・スポンサーシップ

卒業したチャイルドのストーリー（ネパール）

インド

暴力の被害にあった女の子を守る

トーゴ

障害のある子どもの教育支援

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

国際ガールズ・デー　特別インタビュー

モデル・森星さんが

世界の女の子たちとかなえたい夢

活動地域では、女の子たちの憧れのお姉さんでファッションリーダー！
プラン・インターナショナル アンバサダーとして、
長きにわたり女の子たちと交流を続けている森星さん。
視察での気づきや、今後実現したい夢について伺いました。

「勉強を続けるには栄養管理も大切。活動地域の女の子たちと、一緒に料理をするのが夢です」



撮影：久野美玲　スタイリスト：入江陽子　ヘアメイク：美舟　ジャケット、トップス、パンツ（全てISABEL MARANT TEL 03-5772-0412）　イヤリング、イヤーカフ（ともにSARATH／SARATH カスタマーサポート customer@sarath.com）右手人差し指につけたリング（TOMWOOD／TOMWOOD PROJECT https://www.tomwoodproject.com/ja/）その他（森さん私物）

もりひかり：モデルに加えて、日本の伝統や文化を再編集し発信する「tefutefu, Inc.」を設立するなど、幅広く活躍。2014年より定期的にプランの活動地域を視察し、途上国の女の子の現状をイベントやSNSを通じて発信している。2022年3月、Because I am a Girlキャンペーン終了※に伴い、プラン・インターナショナル アンバサダーに就任。

※プランは、2007年からBecause I am a Girlキャンペーンにより、世界の女の子たちが直面している課題と、その解決にむけた取り組みを広く伝えてきました。キャンペーンは終了しましたが、今後も女の子たちが地域社会や次世代にポジティブな変化をもたらす主体者になるよう、ジェンダー平等の実現を目指して活動を進めてまいります。



子どもたちのパッションや志に励まされる

――2014年にベトナムのプランの活動地域を訪問して以来、カンボジア、ネパール、フィリピンなどで、現地の女の子たちと交流されました。これまでの視察で、特に印象に残っていることを教えてください。

森星さん（以下、森） カンボジアで職業訓練学校の縫製コースと調理コースを視察し、ものすごくいいシステムだなと感激しました！学校の授業で料理など自分が得意なことを伸ばし、卒業後は就業と職場定着のためのフォローアップもある。このように、自立を促す支援は、女の子たちのためにもその地域のためにもなる素晴らしい活動だなと思います。将来の夢の実現にむかって学びを続ける女の子たちから、ポジティブなエネルギーをたくさんいただきました。

――確かに、視察をされているときの森さんの笑顔は、いつも以上に輝いているように思います！

森 女の子たちのパッションや高い志に私自身がものすごく勇気づけられるし、たくさんの学びを得られます。ネパールの小学校でのお絵かきコンテストも忘れられません。子どもたちに「将来の夢」というタイトルで絵を描いてもらったら、多くの子が自分ではなく、自分が住む村の理想のイメージを表現したんです。所属するコミュニティに対して、自分はどう貢献できるのか。それを小さい頃からきちんと考えている姿に、私自身も見習わなければと思わされ、自分の将来や夢を見直すきっかけにもなりました。また、視察した地域の子どもたちは、自然とどう共生するかを、ごく当たり前に考えているのもとても素晴らしいと思います。

ファッションと食の力で女の子を応援したい



2018年にフィリピンを訪問した際のショット。撮影：Teddy Wilkins

――2012年10月に第一回国際ガールズ・デーを迎えてから今年で10周年となります。思い出に残っている国際ガールズ・デーのイベントやエピソードがあれば教えてください。

森 2017年に、バーニーズニューヨーク六本木店でトークイベントに参加したことです。ネパールから来日した女の子たちとスピーチをしたり、ベトナムを視察したときに感じたことを話しました。その際、イベントのためにデザインしたTシャツを着用したのですが、ファッションの力と女の子支援を結びつけられたのは、モデルの仕事を少しでもいかせたようで嬉しかったです！

――モデルのお仕事に加えて、2021年には、農業を含む日本の魅力を再編集し発信する「tefutefu, Inc.」を設立されました。

森 ここ数年、発酵など食に興味があるんです。プランでも食を通じて何かできればと思い、フィリピンでの栄養改善プロジェクトを支援しました。子どもとその家族への栄養に関する意識啓発活動や、家庭、学校、コミュニティでの菜園作りなどを行うものです。栄養をきちんととることは、元気に学校に行くこと、そして集中して勉強することができる体づくりの基礎となるので大切な支援だと思います。コロナ禍のため、現地への渡航は叶いませんでしたが、子どもたちとはビデオレターなどを通じて交流しました。将来は、現地の気候に合った農作物を一緒に育ててクッキングクラスを開くのが夢です！ヘルシーな和食も素晴らしいですが、それにこだわらずに、その地域の特性や豊かさをいかしたうえで、一緒にできることを探りたいですね。

――プラン・インターナショナル アンバサダーとして、今後どのように活動していきたいですか？

森 これからも、ファッションや食を通して、自分が途上国の女の子のためにできることを考え、実行していきたいです。その際には、地域にもともとある豊かさや子どもたちの個性を尊重したいです。そしてそのためには、さまざまなコミュニティに実際に足を運び、自分の目で見ること、女の子たちの声にきちんと耳を傾けることが大切だと思います。

国際ガールズ・デー 2022
～THINK FOR GIRLS／女の子と気候変動～

女の子と気候変動をテーマに、時事Youtuberのたかまつななさんとアドボカシーグループの長島美紀のトークイベントを開催します。誰もが当事者である気候変動が女の子にもたらす影響と、女の子たちが果たす役割をともに考える機会といたします。ぜひご参加ください！

開催日：
10月7日（金）
20:00-21:15

詳細はこちら

卒業したチャイルドのストーリー

人生の節目に必要な支援を得て、夢を実現

ネパール東部のモラン郡は、1994年から2019年までの25年間、
プランが活動をしていた地域です。ここに住むマラティさんは、
チャイルドとしてプランの活動に参加したあと、
ビジネストレーニングのサポートを受け、起業という夢を実現させました。
25歳となった今、村で小さな化粧品小売店を営んでいます。
女の子の地位が低い社会で、両手に障害のあるマラティさんの人生の節目に、
プランがどのように関わってきたかを振り返ります。



念願の自分のお店をオープン



モランの街並み

幼少期

絵画コンテストの入賞や スポンサーの手紙が励みに

マラティさんは、9歳の頃にプラン・スポンサーシップのチャイルドに登録し、プランの活動に参加するようになりました。「よく覚えているのは、早すぎる結婚をなくすための啓発活動や、子どもの権利について学ぶ活動です。ほかにも、プランから学用品を支給してもらったこともありました。また、絵画コンテストに参加して入賞したことは大きな自信になりました」。

スポンサーとの交流について聞くと、次のように答えました。「スポンサーはドイツの人でした。ドイツから頻繁に届く手紙を、コミュニティ・ボランティアが手渡してくれたときの喜びを今でもよく覚えています。手紙を通じて絆を育んだ幼い日の体験は、今でも忘れられない思い出です」。



幼い頃から絵が得意だったそう

マラティさんは、生まれつき両手に障害があります。両親や先生は障害を理解し、自然に接してくれましたが、時には差別を受けることもあったそうです。「お母さんの具合が悪いときに、地域の貯蓄グループの集まりに代理で出席しました。すると、『そんな体では何もできないのに、なぜ来たの?』と言われて、とても傷つきました」。性別によって役割が固定化されがちな男性優位社会で、マラティさんは、女の子であること、障害があること、二重の困難を乗り越えてきました。

思春期

ITスキルを学んで 将来の夢の実現に備えた

10代半ば頃より、マラティさんはプランからコンピューターのトレーニングを受けて、ワードやエクセルなどが使えるようになりました。「農業で生計を立てていた両親も、プランが支援する養豚プロジェクトや貯蓄貸付グループへの参加を通じて、収入を増やすことができました。姉も生理用の布ナプキン作りのワークショップに参加するなど、家族もプランの活動に積極的に関わるなかで、10代を過ごしてきました」。



賞状を手にするマラティさん

青年後期

起業の基礎を学んで 自分のお店をオープン

18歳のとき、マラティさんはチャイルドとしての登録終了を迎えます。「将来自分のお店を経営したいという夢を持っていたので、プランが地域で実施している若者むけのビジネストレーニングに参加し、仕入れの仕方や販売方法などの小規模ビジネスを立ち上げるための基礎を学びました。その後、プランから起業用の初期投資として2万ネパール・ルピー（約2万円）の支給を受け、店舗の借り入れや商品の仕入れを経て、念願のお店をオープンさせました。開店日は人生最良の日でした! これからは自立した女性になり、良い人生を送れるのだと感じました」、というマラティさん。ネパールの子どもたちにとって一番大切なのは、希望を失わないことと話します。「私が住む地域の一番の問題は、子どもや女性、障害者に対する厳しい社会規範だと思います。子どもたちには、女の子だから、障害があるから、という理由で人生の希望を失わないでほしい。社会規範によって、自分の足で立つことをあきらめないでほしいです。私はチャイルドだった頃、プランの活動を通じて、将来は自分で何かをして自立した女性になることをずっと夢みていました。そういう夢を見られることが当たり前の社会になってほしいです」。



お姉さんとともに

マラティさんとプランの関わり



幼少期
- ●学用品支援
- ●絵画コンテスト

（チャイルドとしてドイツのスポンサーと交流を開始）

思春期
- ●コンピューター トレーニング

青年後期
- ●ビジネス トレーニング（起業支援）
  - ・養豚
  - ・月経の衛生管理 トレーニング

子ども・若者の組織化
行政や関係機関・住民の間のネットワークづくり
約25年

プランは、モラン郡で25年間の活動を通じて、行政や住民との信頼関係を築き、マラティさんのように子どもたちの人生の節目において必要な支援を行った

マラティさんから日本のスポンサーの皆さまへ

スポンサーの皆さまお一人おひとりの親切なご支援に心から感謝しています。私は今でもスポンサーのことを懐かしく思い出します。スポンサーの方が、私と家族に会うために、はるばるネパールまでお越しくださったときには、とても感激しました。皆さまが交流しているチャイルドも、きっと同じ思いで、感謝していると思います。

illustration by Noriyuki Goto



○＝本プロジェクトを実施するムンバイ

インド

性暴力の被害に苦しむ女の子たちが生きる力を取り戻せるように

インドでは、レイプ、性的虐待などのジェンダーに基づく暴力が頻発しています。
被害を受けた女の子や女性の多くは、偏見による差別やさらなる暴力に苦しんでいます。
このプロジェクトでは、被害を受けた女の子たちが適正な裁判を受け、
心身の健康回復と社会復帰を実現するための支援をします。

インドのプランでソーシャルワーカーとして働くダーシャ。暴力を受けた女の子たちのカウンセリングと社会復帰の支援をしています。

ある日、ムンバイの児童養護施設で、アイラという16歳の女の子と面会をしました。アイラは一見明るい女の子でしたが、これまでどのように過ごしてきたかを聞くと、「こうなったのはすべて自分が悪い」と泣き出しました。





両親を亡くしたアイラは、兄とともに親戚の家で暮らしていました。ある日、兄に「ときどき訪問すればお金をくれるおじさんがいる」と、ある高齢男性の家に行くように言われました。その男性は最初のうち、アイラを娘のようにかわいがっていましたが、やがて性的虐待をするようになりました。

虐待に気づいた近所の人が、「私の妹の家に逃げなさい」と言ってくれました。妹さんの家で数日かくまってもらったアイラは、生理が来ないことに気がつきました。思い切って妹さんに事情を打ち明け、病院で診察を受けました。アイラは妊娠していたのです。

病院が警察に事情を知らせ、児童福祉委員会※の仲介で、アイラは中絶手術を受けました。その後、児童養護施設に保護されたアイラは、親戚の家に戻ることを希望しましたが、叔父も叔母もアイラの引き取りを拒否。そのため、施設からプランに連絡があり、ダーシャと面会することになったのです。

ダーシャは、「これまでの出来事はアイラのせいではない、自分を責めないで」と伝えました。そして、アイラが思いつめて自分自身を傷つけることがないよう、ヨガやリラクゼーションの手法も取り入れつつ、面会を重ねました。



※インドでは2021年に法律が改正され、妊娠期間の20週まで安全な中絶が認められるようになりましたが、未成年者などの場合、児童福祉委員会により、24週まで中絶が認められることもあります。



アイラの気持ちが少し落ち着いてきたので、ダーシャはアイラの社会復帰を見据えて、同世代の女の子たちと話す機会をつくりました。しかし、ときどき精神的に不安定になり、滞在する施設から逃げ出そうとすることもありました。

そこで、ダーシャはカウンセラーと相談し、教育や職業訓練などを通して、アイラの関心が他のことにむくよう働きかけました。アイラは学び続けることで、少しずつ前向きな気持ちになっていきました。



ダーシャは、アイラに性的虐待をした男性へ法的措置を取るため、警察と連携して準備を進めています。また同時に、ジェンダーに基づく暴力への理解を高めるため、警察や学校を対象にしたワークショップも実施しています。

被害にあった女の子たち誰もが適正な裁判を受け、心身に受けた傷から回復し、生きる力を取り戻してほしい――そう強く思いながら、ダーシャは今日も活動を続けています。

ガールズ・プロジェクトのご支援をお願いします

● 司法と心のケアの両面からサポート

「暴力の被害にあった女の子を守る」プロジェクト（インド）

詳細はウェブサイトをご覧ください



被害に遭った女の子たちを守るとともに、性暴力の根絶を目指します

解説：プログラム部　大重早苗職員

インドのマハラシュートラ州では、残念ながらアイラのようなケースが決して珍しくありません。しかも新型コロナウイルス感染症による経済への影響や、人々のストレスが強まった状況下では、ジェンダーに基づく暴力のリスク増加がいっそう心配されます。

性的虐待や暴力を受けた被害者は、誰もが心と身体に深刻な傷を負います。ジェンダー平等の意識が浸透していない社会では、弱い立場にある女の子や若い女性が、性被害に対する支援や正義を求めて声をあげることはとても困難です。またそのことが、健康や人生を取り戻すうえでの妨げにもなります。

本プロジェクトでは被害者への直接支援と並行して、司法や警察と連携した被害者支援体制を強化し、地域で性暴力をなくすための啓発活動を進めています。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

トーゴ

障害のある子どもたちが平等に教育を受けられる環境づくり



レポーター：プログラム部
武田めぐみ職員

障害のある子どもは、世界全体でおよそ2億4000万人に上ると推計されています※1。そうした子どもたちは、障害のない子どもと比べて、学校に通うことができない確率が49%高いと報告されています※2。プラン・インターナショナルは西アフリカのトーゴで、障害のある子どもがより良い人生を歩むことができる社会を構築するため、「障害のある子どもの教育支援」プロジェクトを実施しています。現地に駐在している武田職員が報告します。



トーゴってどんな国？

トーゴは西アフリカに位置する小さな国で、首都ロメはガーナとの国境沿いにあります。人口の多くを子どもや若者が占め、ほとんどの人々が農業に従事しています。安全な水や衛生設備が不足するなど、社会・経済基盤の整備が遅れおり、とくに農村地域は深刻な貧困問題を抱えています。

障害のある子どもが安心して学べるように

トーゴがある西アフリカと中央アフリカは、世界のなかでも障害のある子どもの割合が一番多い地域で、その数は15%と推計されています。

障害のある子どもは家庭内に隠されたり、いじめの対象となったりしがちです。学校の設備が整っていないことも、こうした子どもたちが学校に通えない原因の一つとなっています。

トーゴでは、国内の交通手段は車しかなく、農村部に住む人々にとって都市部への移動は経済的にも時間的にも非常に負担がかかります。特別支援学校は都市部にしかなく、農村部の小さな村に住んでいる障害のある子どもたちが通学することは困難です。

障害のある子どもたちの通学を妨げる原因は、学習環境や移動時間だけではありません。地域の人々や教師による偏見と差別が、子どもたちが学校に行くこと、そして地域に溶け込むことをいっそう困難にしています。

このプロジェクトは、トーゴ中部に位置するバサール県およびモー県で実施され、小学校の教室やトイレ、給水設備の整備、スロープの設置などによる学習環境の改善に取り組んでいます。そして保護者、地域住民、教師へのトレーニングや意識啓発を行い、障害に対する差別的な社会規範を変えることを目標としています。これらの活動を通して、障害のある子どもたちが質の高い教育を受け、差別を受けることなく、のびのびと育っていけるよう支援します。







プロジェクトの対象校で学ぶ子どもたち

※1　UNICEF, Seen, Counted, Included: Using data to shed light on the well-being of children with disabilities, January 2022
https://data.unicef.org/resources/children-with-disabilities-report-2021/　※2　2021年、ユニセフの調査による

地域の人々とともに活動を開始！

2022年6月中旬、小学校の学習環境の整備にむけて、地域の人たちとミーティングを行いました。最初の段階から地域の人たちを巻き込むことは、プロジェクト終了後も環境を維持するためにとても重要なことです。ミーティングでは、学校維持管理委員会を設立し、委員会メンバーがそれぞれ事務や会計などの役割を担い、主体的に活動に参加することになります。皆さん、生き生きとした表情で、小学校の環境整備に期待を膨らませていました。

いつもは農業、理美容、小売りなどの仕事に携わっている人々が、地域の子どもたちのために時間を割いて奮闘しています。新しい学習環境が整備された小学校の完成が楽しみです。



プロジェクト対象校で子どもたちの話を聞く武田職員

現地担当者からのメッセージ

大人たちの意識改革に精力的に取り組みます



アジ・ナレ職員
プロジェクトコーディネーター

私は、2018年～2021年にモー県で実施した「障害のある子どもの教育支援」プロジェクトを担当していました。障害のある子どもたちが教育を受けられるようにするため、小学校の環境を整備し、地域の人々の意識を変えるよう働きかける活動で大きな成果をあげました。今回のプロジェクトではモー県に加え、バサール県の人々とともに、小学校の環境整備を行います。また、障害が「呪い」や「恥」であるといった偏見をなくすため、保護者や教師、地域の人々に対するトレーニングと意識啓発活動に精力的に取り組んでいきたいと思います。

3年間の

主な活動内容

■ **小学校での学習環境の整備**
7校で教室・トイレ・給水設備の整備、16校でスロープの設置

■ **小学校でのインクルーシブ教育※3の促進**
教師100人に多様性を尊重する教育や
点字・手話に関するトレーニングを実施
50校に障害のある子どものための教材を支給

■ **障害のある子どもへの支援**
35の子どもクラブの設置
障害のある子ども100人に義足・義肢などの補助器具支援

■ **障害のある子どもをもつ保護者への支援**
50の父親・母親クラブの設置
保護者の収入向上支援



子どもに点字を教える教師

■ **地域における意識啓発**
ラジオを通じた啓発活動
20村で啓発イベントを実施

■ **市民団体の育成と政府への働きかけ**
連携する地元NPOや政府職員対象のワークショップや研修を実施

※3　インクルーシブ教育：障害の有無や貧富の差、都市や農村など居住地による区別なく、すべての子どもが分け隔てなく学べる教育のこと



障害について学ぶ保護者たち

新しいグローバル・プロジェクトがスタート！

● 差別を乗り越えともに学ぶ

「障害のある子どもの教育支援」プロジェクト（トーゴ）

※このプロジェクトは、外務省(NGO連携無償資金協力)の支援のもと実施しています

詳細はウェブサイトをご覧ください

ファッションのリコマースで環境にも女の子にもやさしい世界に

リコマース※サービス「ブランディア」を通して、
循環型社会に貢献したいと考えている株式会社デファクトスタンダード。
買取金額の一部を寄付する「ブランディア・チャリティープログラム」に
込めた思いを伺いました。

※中古品をインターネット上で取引するビジネスモデル



株式会社デファクトスタンダード
マーケティング部　マネージャー
遠藤夏海さん

思いやりの心も循環させたい

弊社は、日本最大級のリコマースサービス「ブランディア」を運営しています。不要となったお品物を全国で買い取るサービスです。誰かが不要になったモノを再利用することで、廃棄される衣服やブランド物が少なくなる循環型社会の構築に貢献したいと願っています。また、「ブランディア」の拡大を通して、ＳＤＧｓの目標のひとつである「つくる責任　つかう責任」をより一般化していきたいと考えています。

モノだけでなく、人と人とをつなぐ思いやりの心も循環させたい……。このような思いを込めて、２０１２年には「ブランディア・チャリティープログラム」を始めました。お客様が、ブランディアの買取金額のうち任意の金額を、チャリティプログラムで提携している団体の活動に1円から寄付できる仕組みです。不要なファッションアイテムを手放し、無理なく寄付活動に参加できる仕組みとして多くの方にご活用いただいています。これまでに、金額にして約５０００万円の寄付をお客様に選択いただいており、順次各団体に寄付を行っております。

お客様の約8割は女性で、お子様をお持ちの方も多いため、女の子支援に高い関心があると考え、寄付先のひとつにプラン・インターナショナルを選びました。実際、子ども支援に興味を持つ方が多く、特にウクライナ危機の発生以降は、「世界の子どもたちのために自分も何かしたい」という声が多い印象があります。

ネパールとベトナムの女の子の自立を応援

プランを通して、２０１８年にはネパールの若年女性のためのＩＴトレーニング、２０２１年からはベトナムにおける女の子の自立支援プロジェクトを支援しています。ベトナムでの活動は、貧しい農村部から都市部に出てきた女の子たちや弱い立場に置かれた人々が、美容師として働けるよう技術を習得し、自立をサポートするものです。美容技術を学ぶだけでなく、コミュニケーションや問題解決などのライフスキルトレーニングや、就職支援も行っているそうです。いただいた報告は、メールマガジンなどでお客様にも共有しており、反応率が高いですね。



美容技術トレーニングで、ヘアカラーの調合を学ぶ研修生（ベトナム）



ITトレーニングの修了証を手にする女の子たち（ネパール）

物語性のある寄付で途上国をサポート

愛着を持って使ったファッションアイテムをリコマースに出すことで、循環型社会の一員となり、かつ途上国の女の子支援にも貢献できる。「ブランディア・チャリティープログラム」は、お金を送る寄付以上に、エモーショナルで物語性のある体験ができる点が、お客様からも好評です。日本では寄付行為はまだ一般的ではなく、物品寄付も一個人が、本当に必要なものを届けることは難しい側面もあると思います。その課題解決の方法のひとつとして、弊社のサービスがお役に立てれば嬉しいです。

「瞬発力」のある支援も必要なのだと実感しました

2002年から20年以上、プラン・スポンサーシップでチャイルドとの交流を続けてくださっているM.F.さん。昨年、初めて「一口100万円プロジェクト」でラオスの子どもたちの就学前教育を支援するプロジェクトに参加し、“さまざまなカタチ”の支援を行うことの大切さを実感されたそうです。



ラオスで行われたプロジェクトの覚書の署名式

「海外」を意識するきっかけになった母の言葉

4歳のときに、通い始めた幼稚園の園長先生は、ヨーロッパの方でした。子ども心に「何かが違う」と思った私は、母に「園長先生は外国人なの？」と尋ねました。すると母は、「確かに園長先生は外国の方だけど、あなたも外国に行ったら外国人になるのだから、先生とあなたは何も違わないのよ」と言い、ものすごく納得できたのを覚えています。

このとき、「いつか自分も外国に行って外国人になる！」と言って両親を困惑させたそうですが、私の思いは変わらず、英語を勉強し、短期・長期で海外留学もしました。アメリカ留学中には、アジア、アフリカ、南米からの留学生たちに現地の話を聞き、途上国支援の重要性も実感。社会人になってからは、折にふれて寄付などを行っていました。

プランの広告に衝撃を受け約20年間チャイルドと交流

２００１年の年末に地元の地方紙で、プラン・インターナショナル（当時は「フォスター・プラン」）の広告を目にしました。そこには『子ども は、川に水を汲みに、生れたのではない。』（原文ママ）というコピーが。アメリカで留学生たちに聞いた話よりもさらに胸が絞めつけられる現実があることに衝撃を受け、ほぼ即断でプラン・スポンサーシップに申し込みました。

現在は3人目のチャイルド（ガーナの男の子）と交流していますが、正直、この20年は親の介護や看取りと重なっていたこともあり、カレンダーキャンペーン等には参加するものの、手紙はなかなか書けずにいました。それでもチャイルドから写真や絵が送られてくると、部屋に飾って眺めたり……。

高齢の親たちのケアと向き合ってきた私にとって、チャイルドは希望の光です。つながっているだけで無常の喜びを感じます。





（上）幼稚園が建設されることを聞いて喜ぶ現地の子どもたち
（左）幼稚園の建設現場でミーティング

短期間で確実に改善できる瞬発力のある支援に感動

２０１９年末、私の父が亡くなりました。遺してくれたお金をどう生かそうかと考えていたところ、『プラン・ニュース』と一緒に、一口１００万円プロジェクト「ラオスの少数民族の就学前教育支援プロジェクト」の募集チラシが送られてきました。中学校の社会科教師だった父にぴったりの支援だと思い、思い切って申し込むことにしました。

一度に１００万円という高額支援は初めてのことで、「自分の身の丈に合っていないのでは？」という迷いもありました。でも実際に参加してみると、今、そこに暮らす子どもたちの教育環境を短期間で確実に改善できるという、「瞬発力」のある支援のパワーに感動。ほぼ50年前に終わったベトナム戦争時の不発弾の確認が今でも必要という、まったく知らなかった現地の実情を学ぶ機会にもなりました。

ふと計算してみたら、私がこの20年ほどでスポンサーシップに寄付した金額の合計も、約１００万円になっていました。きっと、継続的な支援と瞬発力のある支援、両方が車の両輪のようにあることが、途上国支援には重要なのですね。

今年は、ウクライナの避難民緊急支援にも寄付させていただきました。私のような平凡な一主婦でもできる支援を、これからも機会があるごとに続けていきたいと思います。

アドボカシー

気候変動とジェンダー課題について インスタグラムで発信



昔話をモチーフにしたクレイアニメで問題提起をしていきます

FAIRY_TALEPROJECT

2023年5月に広島でG7サミットが開催されます。自然災害の多発や慢性的な食料不足など、気候変動に起因する課題は山積しており、気候変動対策はG7での重要な議題になっています。

プラン・インターナショナルはG7広島サミットにむけ、気候変動によってジェンダー不平等がさらに拡大していることを訴えます。御茶の水美術専門学校の学生の皆さまにご協力いただき、気候変動とジェンダー課題について、多くの人が自分事としてとらえることができるよう、発信していきます。ぜひインスタグラムをフォローしてください。

アドボカシー

G7加盟国首脳に「世界的な食料危機に対し、早急な資金拠出と迅速な支援」を要請

プランは、今年6月にドイツで開催されたG7サミット（主要7カ国首脳会議）に先立ち、世界で拡大している深刻な飢餓に対する国際社会の迅速な行動を求める共同書簡を発表しました。

多発する紛争による政情不安や、気候変動が引き起こす干ばつなどにより、世界196カ国のうちの53カ国で、約1億9300万人の人々が深刻な食料不足に陥り、緊急支援を必要としています。これに追い打ちをかけたのが、2022年2月より続くウクライナ紛争による食料価格の高騰です。

飢餓に苦しむ地域では、食料を与えられる順番が最後の女の子が、最初に飢餓に陥るという不平等に直面しています。さらに、早すぎる結婚や強制結婚、教育の中断などが、女の子の権利に壊滅的な打撃を与える危険があります。

共同書簡では、約4900万人の人々を飢饉から救い、栄養不良に苦しむ1億3700万人を支援するために必要な資金として2155億米ドルの拠出や、「飢饉防止及び人道危機に関するG7コンパクト」に記されているコミットメントを遂行し、ジェンダー、年齢、障害に配慮した支援の必要性などを訴えました。

G7サミットで日本は、中東・アフリカ諸国への食料支援として2億ドルの拠出を表明しました。また、8月にチュニジアで開催されたTICAD8（第8回アフリカ開発会議）で、1・3億ドルの食料支援及びアフリカ開発銀行の「緊急食糧生産ファシリティ」への3億ドルの協調融資を発表しました。

来年のG7サミットにむけて、日本政府が世界的な食料安全保障の危機にどのように取り組むのか、今後の動向を引き続き注視するとともに、プランは今後も、国際社会と力を合わせて、飢餓に直面し命を落とす危機に瀕している子どもたちを救うための活動を進めていきます。



食料危機下では、口減らしのために娘を結婚させる家庭が増加

HUNGER CRISIS

アフリカ7カ国・食料危機緊急支援にご寄付をお願いします

上記の通り、世界は今、深刻な食料危機に直面しています。プランは、なかでも壊滅的な飢餓に瀕しているアフリカ7カ国（ケニア、エチオピア、ソマリア、南スーダン、マリ、ブルキナファソ、ニジェール）を支援するために、緊急の寄付募集を行っています。詳しくは同封のチラシまたは、ウェブサイトをご覧ください。





高田さんがご自身を描いたイラストです

＼ プランの活動をSNSで発信しています！ ／

楽しい、嬉しい気持ちをシェアしたい

ペルーの男の子と4年近く交流を続けている高田さんは、ご自身のSNSでプランの活動について発信してくださっています。交流に対する思いについて伺いました。

スポンサー **高田エミ**さん
チャイルド **ダルリー**くん（13歳）／ペルー



約1年前のダルリーくんとお母さん。プランの教育プログラムに参加して「こんな勉強をしました」と 高田さんに報告をすることもあるそうです

"幸せ"を伝えてくれるチャイルドの手紙

私が交流を続けているのは、ペルーのダルリーくん。絵が上手で勉強も頑張っている男の子です。支援のきっかけは、信頼している著名人の方がプランを支援していることを知り、「この団体なら大丈夫」と思ったことです。しかし、なかなか決心がつかず、実際に申し込むまでには時間がかかりました。

そんなとき、2018年に父が他界し、少しお金を残してくれました。生前は被災地に駆けつけてボランティアをするような人だった父への思いが「プランに申し込もう」というスイッチになりました。プランへの支援なら父も喜んでくれるだろうと思ったのです。

ダルリーくんはロバや羊の世話を日課にしているそうです。それを苦としていない普段の様子を、ほのぼのとした絵や手紙で教えてくれます。誕生日のお祝いをたずねたら「両親がぼくを抱きしめてキスしてくれました」という返事がありました。決して裕福とはいえなくても〝幸せ〟が伝わってきました。

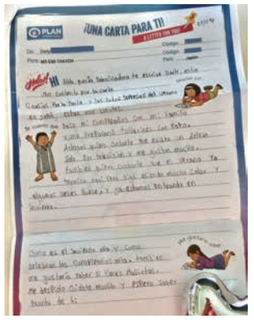
このように活動地域の子どもから手紙を受け取れるのは素敵なことです。私からは日本の夏の様子を伝えるため、花火や風鈴などの写真をコラージュ風にして送ったことがあります。プランの活動は、子どもたちの心のなかに、夢と希望の種を蒔くことでもあると思います。

SNSでの発信はシンプルな気持ちから

SNSでの発信を始めたきっかけは、単純に「手紙をもらって楽しいな、嬉しいな」という気持ちをシェアしたかったからです。私にとってプランの活動は特別なことという感覚はなく、今や日常にすっかり溶け込んで、楽しみのひとつになっています。投稿を見た人からはダルリーくんの絵に対する感想が送られてくることもあります。また、発信することで、以前の私のように支援について迷っている人の気持ちを後押ししたいです。

SNSでは一度、失敗もありました。チャイルドのフルネームを上げてしまったのです。その点、SNS投稿のルールを事前に知っておくと安心ですね。

支援が支援だけに終わらず、やり取りのなかに感動したり勉強になったりすることがたくさんあります。ペルー産のアボカドを見ると「ダルリーくんの国だ」と思い、世の中はすべてつながっていると、しみじみ実感しています。親類や知り合いのお子さんを見つめる〝遠くのおばちゃん〟のように、今後もダルリーくんの成長を見守っていきたいですね。





嬉しいのは「やはりお手紙が届いたとき」という高田さん。「手書きの文字や文面、絵から彼の息づかいが聞こえてくるようで、毎回感動します。少しずつ成長している様子にもじ～んとします」

チャイルドとの交流を発信しませんか

チャイルドとの交流で感じたことや嬉しかったこと、チャイルドからの可愛いお手紙などを、SNSでご紹介ください。支援の輪を広めることにつながります。 投稿する際は、ぜひハッシュタグ「＃プランインターナショナル」をつけてください。また、チャイルドとその家族のプライバシーと安全を守るため、以下にご協力ください。

〈SNS投稿の際の注意点〉

ご紹介いただける情報	ご紹介いただけない情報
●チャイルドのファーストネーム	●チャイルドのフルネーム
●チャイルドの写真	●チャイルド番号
●住んでいる国	●住んでいる地域

※プランは子どもと若者の安全を守るためにセーフガーディング・ポリシーを定めています。詳しくはウェブサイトをご確認ください。

「ギフト・オブ・ホープ」にたくさんのご参加をありがとうございました！

2021年度の年次報告書に同封していた「ギフト・オブ・ホープ～子どもたちにクリスマスプレゼント・お年玉を贈ろう」には、今回も大勢の方々にご参加いただきました。

「地域主導型の小学校給食」プロジェクトを実施しているカンボジアでは、農村地域の小学校の調理室に燃料節約型のかまどや学校菜園キットが贈られました。新しいかまどができたことで、調理に必要な薪の減量や調理時間の短縮となり、給食を作る保護者やボランティアにも喜ばれています。学校菜園で栽培・収穫した野菜を使い、栄養価の高い給食を子どもたちに提供できるようになります。

皆さまからの子どもたちへの温かいご支援に感謝を申し上げます。2022年のギフト・オブ・ホープについては、12月の年次報告書でご案内いたします。


新しいかまどで給食を作る保護者たち


野菜を栽培する子どもたち

平和を願うチャリティTシャツプロジェクト　プランが寄付先に

服のチカラを、世界が良くなるために生かしたい。そんな思いとともに、ユニクロがスタートしたPEACE FOR ALLプロジェクト。「世界の平和を願ってアクションする」という趣旨に賛同した著名人がボランティアでデザインしたTシャツが全世界の店舗で販売されています。ユニクロを展開する株式会社ファーストリテイリングより、利益の全額がプランなど国際的な支援活動を行っている団体に寄付されます。

https://www.uniqlo.com/jp/ja/spl/ut-graphic-tees/peace-for-all

「書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン」最終結果のご報告

書き損じたり未使用のまま手元に残ったりしたはがきを送っていただき、途上国の子どもたちを支援するこの企画。長引くコロナ禍で活動が制限されるなか、今回も7つの学校の学生ボランティアが協力してくださいました。合計42,371枚のはがきが集まり、183万2,852円のご寄付へとつながりました。

また、これまで新型コロナウイルス感染症の影響により集計作業ができなかった学校の集計結果が全て出そろいましたので、最終結果をご報告します。2020年度は、はがき総数42,155枚、227万3,406円のご寄付を、2021年度は、はがき総数57,193枚、243万1,291円のご寄付をいただきました。さまざまな制限があり活動が困難な状況下で、キャンペーンにご協力くださった学生と教職員の皆さま、はがきを送ってくださった皆さまに感謝申し上げます。



キャンペーンのフライヤー

「国際ガールズ・デーPLUS」のアイコンを作成

「国際ガールズ・デーPLUS」は、株式会社アマナとイエローコーナージャパンを中心とする賛同企業が、サイネージなどの広報発信や寄付付き商品販売を通じて、国際ガールズ・デーの認知向上に貢献くださっている企業プラットフォームです。毎年その年のテーマに合わせて作成する共通アイコン。今年はアマナ所属ビジュアルコミュニケーション・ディレクターの丸岡和世さんとコンスタンス・リカさんのチームが、さまざまな風景と女の子をコラージュし、世界の女の子たちの現状を考えてほしいというコンセプトで作成してくださいました。


©MARUOKA KAZUYO,
CONSTANCE RIKA (amana)

全国のイトーヨーカドーで今年もレジ横募金を実施

株式会社イトーヨーカ堂は、2022年9月1日（木）から約3カ月間、全国のイトーヨーカドー店舗で「アフリカ7カ国・食料危機緊急支援プロジェクト」のための募金を実施しています。世界的な食料危機が迫るなか、プランは飢餓が深刻なアフリカ7カ国（ケニア、エチオピア、ソマリア、南スーダン、マリ、ブルキナファソ、ニジェール）での支援活動を強化しています。集められた募金は、栄養・食料支援のほか、危機下にある子ども、特に女の子を守る取り組みに充てられます。店舗にお立ち寄りの際にはご協力をお願いいたします。

プラン・ニュースのアンケートへのご協力、ありがとうございました

2022年7月に発行した「プラン・ニュース120号」について、オンライン読者アンケートを実施し、500以上のご回答をいただきました。ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。

今回も95％の方から「良かった」との回答をいただきました。アンケートから、職員の顔が見える記事を読みたい、というご意見をいただき、今号から新企画をスタートいたします。改善につながる貴重なご意見や、励みになるコメントもたくさんいただきました。いただいたご意見は職員全員に共有しております。今号もアンケートを実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

あなたも参加しませんか？

Wウェブサイト fフェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai

※新型コロナウイルスの感染状況によっては断りなく中止となる場合があります。

プラン名古屋の会 W f

ワールドコラボフェスタ2022 in Nagoya
- 日時：2022年10月23日(日)10時～18時
- 会場：オアシス21・銀河の広場(名古屋市)
- 内容：ブース参加　3年ぶりの会場開催です。
  会場に遊びに来てください！
  (会場運営のお手伝いを募集予定。希望者は下記名古屋の会のメールアドレスにご連絡ください。)
- 参加費：無料
- 連絡先：久世

Mail: info@plan-nagoya.sakura.ne.jp
電話: 080-6952-3170

多摩SP会 f

職員報告会
- 日時：10月10日(月・祝)　15時～17時
- 会場：立川市子ども未来センター　201会議室
  立川市錦町3-2-26
- 内容：未定(国際ガールズ・デー関係を含むテーマを予定)
- 参加費：無料　※要事前申込
- 連絡先：矢島

Mail: tama-web3@ngo-npo.org

プラン・札幌の会

職員報告会
- 日時：11月19日(土)　13時～16時
- 会場：かでる2・7 940研修室　札幌市中央区北2条西7丁目
- 内容：(仮) プラン職員を迎えて
  併設：持ち寄りミニバザー(収益はプランに寄付)
- 参加費：無料　※事前申込不要
- 連絡先：お世話人

Mail: p-kai@plan-international.jp (事務局経由)

プラン千葉 W

秋の例会
- 日時：10月16日(日)　13時15分～16時半
- 会場：千葉市民会館　会議室　千葉市中央区要町1-1
- 内容：チャイルドへの手紙書き　ほか
- 参加費：500円
- 定員：先着30名(新型コロナウイルスのため定員が15名になる可能性があります)
- 申込締切：10月14日(金)
- 連絡先：前田

Mail: e_maeda@yellow.plala.or.jp

PLANサポーターズ（札幌）

チャリティーネイル
- 日時：12月11日(日)　11時～17時
- 会場：チ・カ・ホ(札幌駅前通地下広場) 北3条交差点広場
- 内容：「北海道国際協力フェスタ2022」で
  チャリティーネイル実施(予定)
- 参加費：フェスタ入場無料、入退場自由
  (混雑時は入場制限あり)
- ネイル施術料(1本200円～予定) は全額、寄附します。
- 連絡先：松澤

Mail: namaskar@jcom.home.ne.jp

■ 支援者の会に関するお問い合わせ先：
プラン・インターナショナル支援者の会担当 Mail: P-kai@plan-international.jp

※「プラン・ニュース」No.122は、2023年4月上旬にお届け予定です。

新企画　途上国の支援活動ってどんなもの？

プラン職員の仕事、見せちゃいます！

「プランの職員って、日々どんな活動をしているの？」――そんな疑問にお答えする新企画がスタート！ 第一回に登場するのは、2022年3月からトーゴに駐在している武田職員です。現在は、今号の8～9ページでご紹介している「障害のある子どもの教育支援」プロジェクトを担当。トーゴでの駐在生活について報告してもらいます。



今回紹介する人
プログラム部 **武田めぐみ**職員

武田職員のある一日

8:00-8:30
宿舎から対象の学校へ移動。途中、市場で朝ご飯を買うことも



8:30-10:00
地域の人とミーティング



10:00-10:45
休憩（市場でおやつ用のゆで落花生を買いました！）

10:45-13:00
ミーティング



13:00-14:00
昼食

14:00-16:00
ミーティング（地域の人は16時から夕食なので、この時間で終了）



17:00-17:30
市場でオレンジを買って宿舎へ。トーゴではあちこちでヤギを見かけます（左の写真は放課後、教室に入ってきたヤギ）

17:30-19:00
ミーティングの写真整理、報告書作成

19:00-21:00
地域の人が作ってくれた料理（一人200円）で夕食タイム。シャワーを浴びて、洗濯（お湯は出ません）。23:00で停電するので、携帯やパソコンなどを充電



21:00-23:00
停電まで読書

トーゴに赴任してから半年あまり。現在は、首都ロメから車で6時間ほどのソコデ事務所に勤務しています。月の半分は事務所でデスクワークをこなし、半分は活動地域に出張してプロジェクトの進捗を管理しています。

トーゴに到着してすぐ、バサール県に視察に行きました。今回のプロジェクトで初めてインクルーシブ教育の支援を行う地域です。教室は非常に簡素なつくり、就学率には男女差があり、先生や子どもたちは障害のある子どもに関心がない……。教室は建設すれば解決するけど、人々の意識を３年で変えられるのか、と不安が募るばかりでした。

続いて、モー県の視察へ。モー県は2018～2021年にも同様のプロジェクトを実施していて、学校を訪問すると、子どもたちが手話で挨拶をしてくれました。障害のある子もない子も、同じ教室で一緒に授業を受けています。この光景を見た瞬間、私のバサール県での不安はなくなりました。

支援の現場には、「弱い立場に置かれた人々」がたくさんいます。教育を受けられない子ども、暴力を受けている人、病気の人、家のない人……。支援団体は、どういう人々を対象にどんな支援活動をするのかを明確にすることが大切だと思います。その点、今回のプロジェクトは支援対象が明確で、現地で対象となる人々が本当に必要とすることに応えることができていると感じています。

プランのSNSをフォローしてください

プラン・インターナショナルのFacebook、Instagram、Twitterで活動国の情報や事務局の日々のあれこれを発信中！

※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

ピンと伸ばした背筋に真っすぐなまなざしが印象的なトーゴの女の子。今年3月、プランの職員が出張した際に出会い、思わずシャッターを切ったそうです。この地域では、家事手伝いなどで学校に通えない女の子が少なくありません。学校にトイレはなく、教室も土壁の粗末なものです。今後プランは、この地域で教室やトイレ、井戸の建設を予定しています。子どもたちが、教育を受け続けて地域を変える力になることを願います。

ご意見、ご感想をお寄せください

プラン・ニュース121号アンケート

PLAN NEWS
2022 AUTUMN NO.121

表紙写真：トーゴ

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp
※ご連絡はウェブサイトの「お問い合わせ」フォームよりお願いいたします。